

オンライン教育が可能にしたこととして、教室の人数制限を受けることなく、講義ができるようになった点は見逃せない。入学試験を行ってきた本質的な理由の一つもここにある。たとえば、東京大学で入試を廃止してだれでも入学できるようにしたら、教室が足りなくなってしまうだろう。しかし、オンラインならば、人数を制限することなく受講させることができる。選抜を行うことなく、日本中のあるいは世界中の希望する人に、教育を受ける機会を提供できるのだ。

日本経済新聞2020/7/16付 朝刊「経済教室」※無断複写・転載を禁じます



- 人数制限ない授業が学校のあり方変える
- 一発勝負の入試ではなく受講成績で選抜
- 社会人の学び直しや就活の風景も変わる

.....

一つあり得るのは、オンラインで幅広く講義を提供して受講者のすそ野を広げ、その講義で良い成績を

学校のあり方は、世界的にはコロナ禍の前から発想され、一部の大学では行われていた。それが、オンラインの経験によって、一挙に具体的な姿となって表れてきた。世界の主要な大学は、世界中の様々な境遇にある人々に対して無料でオンライン授業を提供し、そこで探し出された優秀な学生をキャンパスに呼んで学習させる。そういう方向性に変わっていくはずだ。

視点を変えれば、オンライン過程での受講が、選抜という意味である種の入試プロセスになっているとみ

期間を20歳前後までとし、その後は、それをいかして働き続けるという従来の構造は維持できなくなっている。そのため、就職した後でも何らかのスキルを身につける、いわゆるリカレント教育の必要性が、多くの人に認識されるようになってきた。

とはいえ、実際には仕事もある中では、本格的に大学に通うのは難しい。多くの人がいつ、何を学べばよいのか、迷っていたというのが現状だったろう。ところが、このコロナ禍での経験は、リカレント教育の幅を大きく広げた。在宅時に様々なオンラインセミナーなどに参加し、空いている

ここで述べたオンラインを通じた新しい選抜と教育の形は、それらの問題をかなり改善させる可能性をも

つ。そのためには、そもそも入試選抜の結果ではな

時間を使って知見を広めようとした人は少なくなかったとみられる。ある意味では、社会人の学びの機会がかなり広がった期間だったといえるだろう。

きちんと大学の講義を履修して卒業をするという形になっていかざるを得ないはずだ。

そうであるならば、いっそ、就職活動だけにどぎま

く、卒業の可否に意味があるという米国の大学などでは当たり前に行われている。

そう考えてくると、大学などが幅広くオンライン教育の機会を提供するという

らず、卒業を待たずに就職をして、ある程度働いてみた後に、自分が必要と感じ

方向性に、日本の大学は当然変わる必要があるし、その面でも、大学の教育やカリキュラム自体もかなりの

ことは、多くの社会人にとって、リカレント教育の機会を大きく広げることになる。今までのいわゆる社会

る時期に大学に戻つて必要
と思う科目を履修し卒業を
するといつやり方がもつと
あつてもよいのではない

変革は求められよう。授業の履修を通じて選抜していくという考え方をもって、

人向けの大学教育よりも、はるかに幅広い分野で教育資源が提供されることにお

か。なぜならば、特に社会科学の分野についていえば、社会人としての経験を

オンライン教育とその評価
の仕方をつくっていく必要
がある。

るだろう。もちろん、社会人にとって必要な学びは大学などでの座学がすべてで

積んでからのほうが、はるかに理解しやすい講義内容も多いからだ。

以上の点は、入試の問題
だけではなく、就活および
リカレント教育(学び直し)

はないが、大学教育が好き
な時間や場所で受けられる
ことのメリットは、どんな
世代の人にとっても大きい

いすれにしても、オランダの教育の経験からみえてきた自由度は、今後働き方改革のあり方、教育のあり方

のあり方にも大きく影響する問題だろう。人生100年時代といわれるようになり、長い人生の中で、環境

世々の人にとっても方き
はずだ。

そうになると、卒業や就活の意味も今後は随分と変

もきつと大きく変えていく
ことだろう。

変化にあわせてスキルを高め、
いくためには、学びの

ってくるはずだ。現状では
大学生が、インターンをする

4人の筆者が交代で執筆、原則月1回掲載します。